

「ハザードマップ」ご存じですか？

一枚の地図があなたの未来を大きく変えるかもしれません。

突然の災害に、私たちはどれだけ準備ができているでしょうか？ハザードマップとは、浸水や土砂災害、津波が来た際のリスクや、避難所の位置、避難経路など、「この場所で、どんな災害が起こりやすいか」や「どこに逃げれば安全か」「どんな準備が必要か」など「もしも」の時に役立つ情報をまとめたものです。

あなたや家族の命を守るために必要な情報が詰まっていますので、今のうちに確認して、リスク回避や安全を守る行動を始めませんか？

うるま市では、「石川地区」「具志川地区」「与勝地区」「島しょ地区」の4つに分けられ、エリアごと冊子を発行していますので、事前のご準備としてご活用ください。



Interview

うるま市下原(しちばる)地区と南風原地区では(※1)地区防災計画を作り上げました。今回は作成の中心となった塩屋自治会の東恩納自治会長と(株)沖縄環境経済研究所の高平氏にお話を伺いました。

自分たちの地域は自分たちで守る /

塩屋地区は、土砂災害と津波のリスクがあります。地区防災計画策定のきっかけは、令和6年4月3日の津波警報発表時に、道路渋滞の様子を目で見て「このままではマズい」と思ったことです。そこから、1年近くかけてようやく形にすることができました。防災は地域交流のきっかけとなります。この機会に防災を通じて地域活性化を図ってみませんか？

※1 地区防災計画とは、地域住民が主体となって、あらゆる災害に備えるための計画です。地域特有の災害リスクを分析し避難方法や、情報共有などの具体的な行動を定めます。自治体や関係機関と協力・連携し、地域の防災を高めることを目的としています。

